

2026
September

十三公民館だより

発行 十三公民館 ☎・FAX 91-1755

故郷ふれあい 子ども広場

8月19日（水）故郷ふれあい子ども広場を開催しました。

学童保育児童が講師の先生を招いて手づくりおもちゃを作り、作ったおもちゃで遊びやゲーム等を行う事業です。講師にはすっかりおなじみになった氷見市児童クラブ連盟の高澤正三先生を招きました。

最初にブンブンゴマを作りました。直径8cm、2mm厚の丸い白色プラスチック板に、思い思いの絵をかき、円盤の中心近くにあいた2個の穴に糸を通し手で持つところにビニールパイプが来るように糸を通し結びます。それを両手で



持って大きく回転させ燃りをかけ、縄目ができたら左右の手を大きく開きコマを回転させます。この時コマが回転するきれいな模様を眺めたり、コマにあけた無数の穴が風を切るビューンビューンと音が出るようになります。次に、紙コップ2個、幅5mmの竹ひご、アルミ線、色の違った4種類のストローで作る流れるストローを作りました。今年の作品はとってもむずかしくていつもより時間がかかりましたが、一人の脱落者もなくみんなが完成までこぎつけました。ブンブンゴマの聞き比べなどして、楽しい時間をすごしました。最後に、指導してもらった高澤先生にお礼を言って解散しました。



第20回 十三地区ペタンク大会

日時 令和8年9月29日（火）
午前8時00分 受付開始
8時30分 開会式
予備日 9月30日（水）
場所 氷見運動公園軽運動場
少雨実施



9月の講座案内



講座名	曜日	実施日	時間	講師名
詩吟	月	7日・14日・28日	13時30分～	大賀さよ子先生
手芸	火	1日・8日・15日・22日・29日	13時00分～	
詩吟	水	2日・9日・16日・23日・30日	13時30分～	斉藤美紀子先生
バランスボール	日	6日 29日	10時00分～ 19時00分～	浦野 司先生
オカリナ	金	11日・25日	10時30分～	尾崎春夫先生
3B体操	木	3日・10日・17日・24日	14時00分～	堀川絹代先生

十三地区の史跡・伝承

深原のお宮さま

「布勢村より」

梅雨に入って、昨日も今日も雨ばかり。仏生寺川の水は数日前に堤防を乗り越え、十三地区の田畑はどっぷり灌水してしまった。

あきらめとうつろな気持ちを払いのけるように、深原の人達は流れてくる材木を拾っていた。堤防の要所に立ち矢のように流れてくる流木に、鳶口をカンと打ち込み、引き寄せる。適当な間隔をおき、蓑笠に身を包み、村人は現実の悲しみを一時でも忘れるため、流木拾いに熱中しているうちに、流木の山が幾つか出来ていった。

日暮れの気配が感じられ、気のせいか、雨も幾分小降りになったようだが、晴れ上げるとも思われない。村人たちは互いにあいさつを交わし、一人去り、二人去り、今堤防にいるのは正助という若者一人きり。一人者の彼へは、「もう上がろうと」と声をかける者はいなかった。この正助は名の示す通り、正直で、温和な若者だが、家が貧乏なので、皆から軽く見られていた。流木拾いをしている正助には不満もなかった。

彼はぼんやりとはあるが、平素、村人等の利害に対する紛争や自分に関係のないことには傍観者、無関心、弱者や貧乏人には冷淡で、いばって見せる。お互いに助け合い、よくなっていこうという気持ちは、かけらもないことを思いおこしていた。信仰心、神や仏への奉仕の心が欠けているのだ。この雨だって罰かも知れない。

そんなことを考え、流木拾いをしていた。次ので最後にしようと思っていたが、なかなか来ない。やがて木の根の塊のようなものが流れてきた。今日の終わりだと打ち込んだ鳶口はカツントと音がするはずなのに音がしない。それどころか、柔らかいものに打ち込んだような感触。

驚いた正助は塊を引き寄せてみると、鳶口から血が流れだしているではないか。早速、村人に連絡した。彼らは「これはただの木ではない。きっと尊いお方の仮のお姿に違いない」ということで一致し、お宮さまを建ててお祀りをしようと。明日からすぐかかろうとということでその夜は分かれた。

翌日はカラリと晴れた良い天気になった。村人は「神様の御利益だ。手のあいている者は皆かかれ」と言って老いも若きも協力したので立派なお宮さまが建った。その年の秋大水に逢ったにもかかわらず大豊作だった。

秋のお祭りは盛大に行われ、老若男女を問わず、お宮様参りをし、村は今までにない活気を呈し、それからは見違えるばかりに明るい村になったということである。